(54) FORMING METHOD OF ELECTRODE FOR ALKALI STORAGE BATTERY

(11) 59-163752 (A)

:1

(43) 14.9.1984 (19) JP

(21) Appl. No. 58-38852

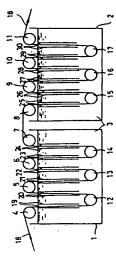
(22) 8.3.1983

(71) SANYO DENKI K.K. (72) TAKAHISA AWAJIYA(3)

(51) Int. Cl3. H01M4/26

PURPOSE: To set the electrode plates to the perfectly discharged condition and suppress overdischarge of electrode plates as much as possible by adjusting a current value to be supplied to the electrode plate through detection of discharged condition of electrode plate from a voltage value between the last electrode pair where electrode plates are opposed in the discharge reservoir and the electrode plate opposing such electrode pair.

CONSTITUTION: The fooped alkali storage battery electrode plates 18 are caused to pass continuously through a charging reservoir 1 and discharging reservoir 2 for the forming process. In such a case, a plurality of discharge power supplies 8~11 and a plurality of electrode pairs 25~30 are disposed in the discharge reservoir, a voltage between the electrode pair 30 of electrode pairs 25~30 to which the electrode plate 18 opposes finally and the electrode plate 18 opposing to said electrode pair 30 is detected, a current to be supplied of one or more power supplies among said plurality of power supplies 8~11 is adjusted in accordance with such detected voltage for the discharging. For example, said voltage is adjusted to -1.2V ~ -3.2V by changing a current to be supplied by the power supplies 8~11 to the electrode plate. Thereby, the voltage can be adjusted to such a value as indicating the areas wherein the capacitance exists or does not exist on the electrode plate opposing to the electrode pair 30 and the discharging condition of electrode plate can be supposed. As a result, said voltage is approximated to a value which is indicated when capacitance remains at the entire part of electrode opposing to the electrode pair 30.



(54) MANUFACTURE OF ANODE PLATE FOR ALKALI STORAGE BATTERY

(11) 59-163753 (A)

(43) 14.9.1984 (19) JP

(21) Appl. No. 58-38853

(22) 8.3.1983

(71) SANYO DENKI K.K. (72) HIDEHARU YAMAMOTO(5)

(51) Int. Cl3. H01M4/28

PURPOSE: To obtain an anode plate which assures high application efficiency of active substance and realized sharp volume efficiency up and capacitance up of electrode plate by allowing cobalt hydroxide to exist on the active substance surface in the particular rate for nickel hydroxide.

CONSTITUTION: A porous metal substrate holding nickel hydroxide which is the anode active substance is immersed into the aqueous solution of nitrate containing cabalt nitric acid and such substrate is then subjected to the alkali processing. Thereby, the cobalt hydroxide of $0.5{\sim}5$ wt% can exist for the nickel hydroxide on the active substance surface. On the occasion of forming said anode plate, for example, in case cobalt nitric acid is used in the amount of 75% or more of said nitrate, or in case immersion of said porous metal substrate into aqueous solution of nitric acid is set in the relation of $X \leq (95-Y)/2.5$, due to the relation between the immersing time X(min) and liquid temperature Y(C), the anode plate having more larger capacitance of electrode plated can be obtained.

(54) PASTED POSITIVE PLATE FOR ALKALINE STORAGE BATTERY

(11) 59-163754 (A)

(43) 14.9.1984 (19) JP

(21) Appl. No. 58-38807

(22) 8.3.1983

(71) YUASA DENCHI K.K. (72) MASAHIKO OSHITANI(2)

(51) Int. Cl3. H01M4/32,H01M4/52,H01M4/80

PURPOSE: To obtain a low-cost positive nickel plate having high performance and productivity by packing an active material consisting of a three-component system composed of nickel hydroxide, cobalt hydroxide and cadmium hydroxide into a porous sintered body prepared by sintering specified nickel fiber.

CONSTITUTION: A positive active material consisting of a three-component system composed of nickel hydroxide, cobalt hydroxide and cadmium hydroxide is packed into a porous sintered body made by sintering $4 \sim 50 \mu$ nickel fiber prepared from nickel powder or nickel oxide powder. For instance, an organic binder, water and the like are added to nickel powder or nickel oxide powder to make a paste which is then extruded from a nozzle with a minute hole thereby making fiber. The thus obtained fiber is heated to around 500° C to remove the organic binder, water and the like contained in it. After that, the heated fiber is sintered in a reducing atmosphere at a high temperature of around 1.000° C, thereby obtaining a porous sintered body.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number:

59163753 A

(43) Date of publication of application: 14.09.84

(51) Int. CI

H01M 4/28

(21) Application number: 58038853

(22) Date of filing: 08.03.83

(71) Applicant:

SANYO ELECTRIC CO LTD

(72) Inventor:

YAMAMOTO HIDEHARU ISOOKA HIROYUKI NAKATANI KENSUKE KANBAYASHI MAKOTO MIYATA HIROYUKI MORIOKA YUJI

(54) MANUFACTURE OF ANODE PLATE FOR ALKALI STORAGE BATTERY

(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain an anode plate which assures high application efficiency of active substance and realized sharp volume efficiency up and capacitance up of electrode plate by allowing cobalt hydroxide to exist on the active substance surface in the particular rate for nickel hydroxide.

CONSTITUTION: A porous metal substrate holding nickel hydroxide which is the anode active substance is immersed into the aqueous solution of nitrate containing cabalt nitric acid and such substrate is then subjected to the alkali processing. Thereby, the cobalt hydroxide of 0.5 @5wt% can exist for the nickel hydroxide on the active substance surface. On the occasion of forming said anode plate, for example, in case cobalt nitric acid is used in the

amount of 75% or more of said nitrate, or in case immersion of said porous metal substrate into aqueous solution of nitric acid is set in the relation of X2(95-Y)/2.5, due to the relation between the immersing time X(min) and liquid temperature Y(°C), the anode plate having more larger capacitance of electrode plated can be obtained.

COPYRIGHT: (C)1984,JPO&Japio

(19) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

昭59—163753

(1) Int. Cl.³ H 01 M 4/28

識別記号

庁内整理番号 2117-5H 砂公開 昭和59年(1984)9月14日 発明の数 1 審査請求 未請求

(全 5 頁)

69アルカリ蓄電池用陽極板の製造方法

②特 願 昭58-38853

②出 願 昭58(1983)3月8日

⑫発 明 者 山本英晴

守口市京阪本通2丁目18番地三

洋電機株式会社内

⑫発 明 者 磯岡寛行

守口市京阪本通2丁目18番地三

洋電機株式会社内

仰発 明 者 中谷謙助

守口市京阪本通2丁目18番地三 洋雷機株式会社内

⑩発 明 者 神林誠

守口市京阪本通2丁目18番地三

洋電機株式会社内

⑩発 明 者 宮田裕之

守口市京阪本通2丁目18番地三

洋電機株式会社内

⑫発 明 者 盛岡勇次

守口市京阪本通2丁目18番地三

洋電機株式会社内

⑪出 願 人 三洋電機株式会社

守口市京阪本通2丁目18番地

個代 理 人 弁理士 佐野静夫

明 細 霍

1. 発明の名称

アルカリ蓄電池用陽極板の製造方法

2. 特許請求の顧用

(1) 水酸化ニッケルを主成分とする陽極店物質 または水酸化ニッケルのみの陽極店物質を保持し た多孔性金属基板を、硝酸コパルトを含む硝酸塩 水溶板に浸漬し、次いでアルカリ処理を行をい前 起店物質の表層に前記水酸化ニッケルに対し0.5 ~5 重量%の水酸化コパルトを単独で存在させる ことを特徴とするアルカリ蓄電池用陽極板の設置 方法。

(2) 前記硝酸塩の75%以上が硝酸コパルトである特許請求の範囲第1項記載の7ルカリ番電池 用陽極板の製造方法。

(3) 前記多孔性金属基板の前配硝酸塩水溶液への浸液が含浸時間をX(分)、また含浸液温をY(で)とすると、

 $X \le (95 - Y) / 25$

の関係である特許請求の範囲第1項または第2項

記載のアルカリ蓄電池用勝極板の製造方法。

8. 発明の詳細な説明

(4) 産菜上の利用分野

本発明は活物質表面に水酸化コパルトが単独 で存在する層を有するアルカリ蓄電池用圏極板の 製造方法に関する。

(四) 従来技術

世来アルカリ書観池の陽極版は、カーボニルニッケル粉末を主成分とするスラリーを添体にコーティングし、これを選元雰囲気下で焼結して主の分とした含浸液を含浸し、次いでアルカリスを改して基故の孔中に、次をで関さる。を対して基故の孔中にいる。しかし、なを対して基故の孔中にいる。しかし、なを対して基故の孔中にいる。しかし、なを対して基故の孔中にいる。しかしなるは、市場とのでは、前述のとは、で得た陽極の容は、電心のと関連を対しては、活物質をなる。をなり、またとしては、活物質をなっているというには、活物質をなっているというには、活物質をなっているというには、たいのでは、カードをは、またなり、または、大きな関をはないある。をはなりには、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、カードをは、ないのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、たいのでは、ないのでは、たいのでは、ないのでは、たいのでは、ないの

(イ) 発明の目的

本発明はかかる点に騒み脇極板中の活物質の 利用率を引き上げ、極板容は及び体積効率の大き な脇極板を得ることを目的とする。

口 発明の構成

本発明は、陽極活物質である水酸化ニッケルを保持した多孔性金與基板を、硝酸コパルトを含む硝酸塩水溶液に浸漬し、次いでアルカリ処理を行ない前配活物質表層に前配水酸化ニッケルに対し0.5~5重量をの水酸化コパルトを存在させることにより、極板容離の大きなアルカリ番電池用陽板を作成するものである。前配陽極板を作成するにあたり、前配硝酸塩のフラギ以上を硝酸コパルトとする場合、また前記多孔性金属基板の硝

す。すなわち、活物質表層はコパルト含有率が高い程良く含浸液組成としてはコパルトが少なくとも 75%以上、望ましくは 100%で高利用率が得られる。

実験2

般水溶液への浸痕を含浸時間X(分)と含浸液塩 Y(で)との関係で

 $X \le (95-Y) / 2.5$ の範囲とする場合には、より一層大きな極板容量 の陽 歯板を得るものである。

做 実施例

本発明に関する実験及び実施例を以下に示し、 図面を用いて説明する。

実験 1

硝酸ニッケルを主成分とする含浸液を用いて、化学含浸法により、焼結式ニッケル基板にニッケル陽極を保持せしめた利用率76%の極板を、ニッケルとコバルトの含有率を変複した後、続いてアルカリ処理、水洗、乾燥を行ない陽極板を作成し、利用率の側定を行なった。第1回回は発を下し、利用率の側にある。四回より明らかな様に含浸液組成によって利用率は大きな影響を受け、コバルトの比率が高くなる程利用率は高い値を示したの比率が高くなる程利用率は高いの

減少が早いことも同様な理由であり、高温になる 程ニッケルのコパルトへの溶解混合が進行するためである。また含浸液温20℃では含浸時間30分以内、45℃では20分以内、70℃では10分以内で含浸を行なうと利用率の大幅な向上が期待できることがわかる。すなわち、第3図の斜線のの範囲であり、含浸液温をY(℃)、含浸時間をX(分)とすれば一般に

X ≤ (95-Y)/25 で良好な効果が得られる。

実練3

実験1と同様の利用率76%の極板を、異なる比重の液温20℃の硝酸コパルト水溶液に5分間浸費した後、続いてアルカリ処理、水洗、乾燥を行ない活物質表層へのコパルト添加減を化させた陽極板を作成し、利用率を測定した。第4図は硝酸コパルト含浸液の比重とコパルト添加率(活物質び水酸化ニッケルに対する活物質表層の水酸化コパルトの割合)との関係を示す図面であり、第5図はコパルト添加率と利用率との関係を

示す図面である。第4図より研 パルト含浸液 の比重を変化させることで、コパルトの添加量を 変化させられることがわかる。コパルトの旅畑量 を災化させる方法として同じ比重の含浸液を用い 今没時間を変化させる方法も考えられるが、削述 のとおり、良時間の硝酸コパルト水溶液への浸漬 は利用率の低下を招き好ましくたい。また第5図 からわかるようにコパルト添加が少ない場合は、 コパルトの添加に伴なり利用率の向上がりかがえ るが、利用率はまだ十分ではなく、それと同時に 充放亀サイクルでの劣化が大きくなる(後述)。 コパルト添加が多すぎる場合は、コパルトの添加 に伴ない利用率の低下がうかがわれ、またガス発 生による極板の部分的剝離が生じ、コパルトのセ パレーターへの母動が著しくなり電池構成時にシ ョート等の危険を伴たり。このコパルト協加が多 すぎる場合の利用率の低下の原因は、極板内の空 孔の一部がコパルトに閉鎖され、また活物質表層 に存在するコパルト層が厚くなり過ぎ、電解液の 拡散、浸透が制限されるためと推測される。上述 の様に活物質設置へ パルトの添加難には最適値があり0.5~5.0 重触をが望ましい。

次に本発明の活物質表質にコパルト添加を施した陽極板の代表的実施例を以下に示し説明する。

実施例1

実験1で用いた利用率76%の極板をペース値板とし、このペース極板を比重14の硝酸コパルト水溶液に室温で5分間浸漉し、続いて乾燥、アルカリ処理、水洗、乾燥を行なって水酸化コパルトの磁叩量が活物質に対して約30%である極板を作成した。この種板をAとする。

実施例2

実施例1のうち浸漬時間を60分間とし、その他の条件は同一で水酸化コパルトの感加量が活物質に対して約3.5%である極敏を作成した。この極板をBとする。

実施例3

実施例1のうち硝酸コパルト水溶液の比重を 11とし、その他の条件は同一で水酸化コパルト の添加量が活物質に対して約0.5%である極板を

作成した。この極板をCとする。

実施例 4

樓]

H.,

示

0 ;

0 4

蝴

曲.

乾

48 - 1

前記ペース極板をコパルトとニッケルのモル 比で3対1である比重14の硝酸塩水溶液に窒温 で5分間浸漬し、続いて乾燥、アルカリ処理、水 低、乾燥を行なって水酸化コパルトの添加量が活 物質に対して約28%である極板を作成した。こ の極板をDとする。

実施例5

実施例4 いうち、比重14 の硝酸塩水溶液のコパルトとニッケルのモル比を1対3とし、その他の条件は同一で水酸化コパルトの添加量が活物質に対して約16%である極板を作成した。この極板をEとする。

尚、削記ペース極放を『として用いる。

前述のA~Fの協板の特性を調査するためニッケル版を対極として用い電解液過剰の下で極依の充放電によるサイクル試験を行なった。向、電解液には比重123のKOHを用い、充電は理論容はの0.1 C×16hr。、また放電は0.2 Cで行な

った。第8図にこの試験により得られたサイクル数と容置との関係を示す。図面より、実施例のではいずれもペース極板に比較して容易率をしたのでは540mAH/cc、下の極板では430mAH/cc と本発明のを依依は430mAH/cc と本発明のをでは430mAH/cc と本発明のをないた。はなるの増加を得、また不利用率にかかわかった。しかし、D及びEの極板はではかいのをはいるのでは、まり4~8%増加しているのでは、またの極板によりなっている。

次に本発明極板と共交極板の充放電時のニッケルの価数の脚定を行なりと、充電時で両極板とも価数約3.1ではぼ同等であり、放電時では本発明極板は価数約2.1まで放電されるのに対し、比較極板は価数約2.3までしか放電されずこの 0.2の 価数の差が容量アップにつながる。これはペース極板の場合、放電時に活物質表面樹より充電生成

物のNiOOHが母電性の低いNi(OH)2に 変化し、放電が進行するのに従い表面層がNi(OH)2にかかわれ、内部のNiOOHの反応が 進みにくくなるのに対し、本発明低板の場合は活 物質表面層に放電し難いCOOHが存在し、こ のCOOHはNi(OH)2より母電性が高い ため表面層にNi(OH)2の様な不働 想層が生 成しにくく、内部までNiOOHの反応が進むか らと考えられる。

更にコパルト添加に関する公知技術と本発明と の比較試験を行ない以下に説明する。

比較試驗 1

公知技術(1)は水酸化ニッケルを保持した極板をPH10~30の範囲の硝酸コバルト含浸液に浸漬し、該硝酸コバルトを水酸化コバルトに変化させることにより、極敏容量が大幅に増加するというものである(特開昭51-121742号公報)。

実験1と同様の利用率76%の極板を、任意のPHの比重14の硝酸コパルト水溶液に室温で5

知技術(2)は、含浸されたコパルトの内75~80 %は充電されるが放電されず、陰極活物質中には 腸極活物質が完全放電されてもなか放電されない コパルト相当分のカドミウムが充電状態で残るため陰極支配にはならずサイクル劣化しないという ものであり、すなわち、腸極の初回の充電効率が 下がる訳であるが、第7図に示す様に本発明では コパルト添加量が少ない場合には逆に高い充電効 率を示した。これは、コパルト層が放電せずに残ったとしても、それ以上にニッケルの放電が深く まで進むためと考えられる。尚、本発明者らの実験によれば上述の公知技術(2)の効果を得るには1 ロ※以上のコパルト添加が必要であった。

(一) 発明の効果

水酸化ニッケルに対し 0.5~5 重量 % の水酸 化コパルトを活物質表達に存在させる 本発明によ 波、活物質の利用率が高く、大幅 を極板の体質効 率アップ及び容量アップが行なわれた陽極板が得 られ、また、含浸液の硝酸塩の 7.5 %以上を硝酸 コパルトとし、含皮時間 X (分) と含浸液温 Y (分間浸漉し、続いて乾燥、アルカリ処理、水洗、 乾燥を行ない脇極板を作成し、閉る図に開発を行ない脇極板を作成し、閉る図に開発を行ない路極板を作成し、閉る図に カトのPHと利用率との関係を示した。 閉る図と りPH1~3の範囲外の硝酸コバルト水溶液を用いた場合にも同様を利用率が得られることがわかる。 公知技術(1)はコバルトとニッケーに範囲のトリー、 が必要をのかもしれないが、本発明ではコバルトとニッケルの混合を可能を限り防止することに意味があり、余りPHは関係しないと考えられる。 すなわち本発明は公知技術(1)とその効果を得るための過程が異なっていると考えられる。

比較試驗 2

公知技術(2)はコペルトを主収分とする含液液を1回以上用いることによりサイクル劣化が防止できるというものである(特公昭 5 7 — 5 0 1 8 号公戦)。

実験3と同一条件で活物質表層のコパルト参加 戦を変化させた陽極板を作成し、第7図にコパル ト添加率と初回の充電効率との関係を示した。公

て)の関係を

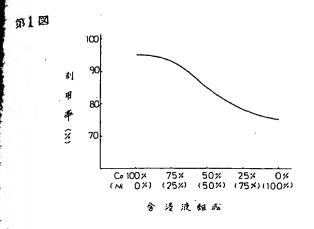
X ≤ (95 - Y) / 25 の範囲とする場合には、前述の効果をより一層高 めることが出来る。

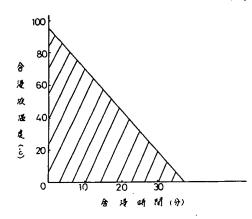
4. 図面の簡単な説明

第1図は含浸液中のコバルトとニッケルの組成と利用率との関係を示す図面、第2図は硝酸コバルト含浸液への含浸時間と利用率との関係を示す図面、第3図は高利用率を得るための含浸時間と含浸液温との関係を示す図面、第4図は、含浸液の比重とコバルト添加率との関係を示す図面、第6図は含浸液のPHと利用率との関係を示す図面、第7図はコバルト添加率と充電効率との関係を示す図面、第8図は、サイクル数と容量との関係を示す図面である。

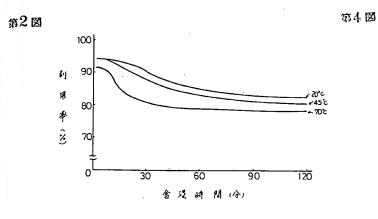
出願人 三年 電機 株式 会社 代理人 弁理士 佐 野 静 夫

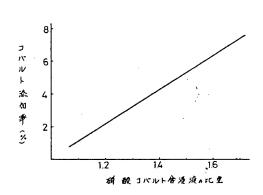


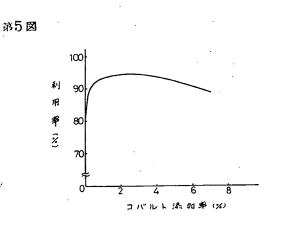


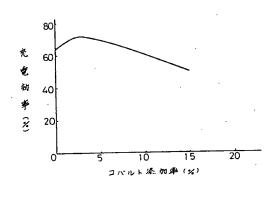


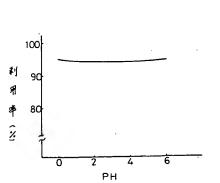
第3 図



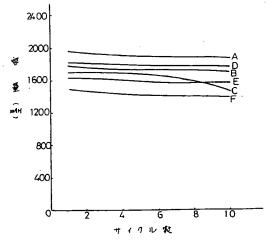








第6図



第7図

第8図